

社会福祉法人廿日市市社会福祉協議会

平成 2 8 年度 事業 報告

はじめに

平成 2 7 年度、生活困窮者自立支援制度の創設や介護保険法の改正など、福祉制度は大きく変わり、社会福祉法人の運営の透明性や経営ガバナンスの強化など、法人としての在り方について、これまで以上の透明性と責任を求め、さらに平成 2 8 年度には、社会福祉法の経営の原則に新たな規定がされ、会計基準の改正など、一部が施行（平成 2 9 年度から全部施行）されました。

市社協では、これらの大きな福祉の変革を活動推進の機会ととらえ、廿日市市から、生活困窮者自立支援事業と、生活支援体制整備事業を受託するとともに、平成 2 7 年度に廿日市市地域福祉計画と同時に策定した廿日市市社会福祉協議会地域福祉活動計画を連動させ、『**地域から頼られ、地域の願いに応えられる社協**』を目指し、事業を展開しました。

事業の概要（主なもの）

●生活困窮者自立支援事業

平成 2 7 年度創設のこの事業は、初年度市直営の事業に職員（社会福祉士 1 人）を派遣していましたが、平成 2 8 年度、市から事業を受託し、常勤職員（社会福祉士）2 人、非常勤職員 2 人を配置して、はつかいち生活支援センター（市役所内）として運営しています。

●生活支援体制整備事業

地域包括ケア体制整備事業の一環として、平成 2 7 年度にモデル事業である生活支援サービス体制整備事業を受託、平成 2 8 年度から本事業を受託しました。廿日市、佐伯、吉和、大野、宮島の各地域の特色、地域の福祉資源や既存の活動を生かし、事務局、各事務所で推進しています。

●福祉人材育成事業

介護職をはじめ福祉にかかわる専門職、人材の不足は、その確保が喫緊の課題となっています。特に 2 0 2 5 年に向けての介護職の確保と育成、現況におけるヘルパー職の確保などの課題解決に向けての方策を検討、実施していくために、広島県社会福祉協議会の補助事業を活用し、行政、福祉関係事業所、福祉サービス従事者の参加による協議会を立ち上げるとともに、就職面談会を開催しました。

●社会福祉法改正への諸準備

平成28年度から実施となった会計基準の改正に伴う諸手続きを実施するとともに、平成29年度からの全部施行に向けて、定款変更、評議員選任等委員会の設置、関係諸規程を改正しました。また、コンプライアンスの確保、福祉活動や制度など大きな流れに対応する、対応できる職員としての資質向上のため、外部研修への参加のほか、内部研修として全体研修や専門研修を実施しました。

事業の詳細

事業の詳細は、次ページ以降のとおりです。

(廿日市市地域福祉計画に示されている5つの基本目標に併せ編集しています。)

基本目標

- 1 社会参加や役割発揮のための人づくり、参加の入口づくりを進めます
- 2 組織（主体）の意識や活動を進化させます
- 3 地域の問題解決に必要な情報を共有します
- 4 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます
- 5 多様な主体の強みを生かした新しい支えあいを育てます

◆廿日市市全域事業	P. 3～P. 21
◆廿日市地域事業	P. 22～P. 28
◆佐伯地域事業	P. 29～P. 33
◆吉和地域事業	P. 34～P. 38
◆大野地域事業	P. 39～P. 44
◆宮島地域事業	P. 45～P. 46

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり

参加の入口づくりを進めます

地域活動をしていくきっかけとなる講座の開催、そして、障がいがあっても高齢になっても、気軽に参加でき、役割を発揮できる場を地域の中に作っていくための事業を実施した。

1 生活・介護支援サポーター養成事業（市委託 284 千円）

福祉、介護に関する知識や技術等について研修の開催

開催日	内 容	参加者
11/21	『阿知須地区における住民主体の見守り活動』 講師：山本 貴広さん	25 人
12/3	『地域の個性や情報を見える化してみよう』 講師：倉田 忍さん	24 人
1/14	『地域のあんしんネットワーク』 ～畑賀地区・中野地区の場合～ 講師：福本 容子さん 大野 敬子さん	22 人
1/26	『訪問研修』～周南市地区ステーションの活動、 助け合い・ささえあいの仕組みについて～	13 人

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・生活・介護支援サポーターが実動できる仕組みをつくる。
→実動に結びつくよう、生活支援体制整備の協議体につなぐことを参加者に伝えることができた。

基本目標（２） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

生活支援体制整備をはじめ、地域福祉を考える核となる組織と連動しながら、福祉課題解決のための「地域の役割」について協議の場づくりに努めた。

1 生活支援体制整備事業【重点】（市委託 22,402千円）

介護保険法の改正にあたり、高齢者の日常生活を支えていくための、生活支援の仕組みづくりと、高齢者の社会参加促進に向けて、地域の多様な担い手による受け皿確保のための基盤整備を住民とともに進めた。

地域内で福祉課題や資源の情報共有、地域資源の更新の仕組みづくりを協議する協議体の整備を進めた。

(1) 全域

- ・高齢介護課との業務連携会議（年 16 回）
- ・リハビリ士会との業務連携会議（4/25・7/15・10/7・1/13）
- ・シルバー人材センター研修（10/26）
- ・市民センター長会議（12/9）

(2) 廿日市地域

- ・廿日市市老人クラブ連合会 廿日市支部連絡会での事業説明（2/13）

ア 廿日市地区

- ・福祉の会定例会議出席（21 回）

イ 阿品地区

- ・阿品地区役員から地域の状況の聞き取り（1/30）

ウ 阿品台地区

- ・阿品台コミュニティから地域の状況の聞き取り（2/9）
- ・ゆめ阿品運営相談（随時）

エ 佐方地区

- ・佐方コミュニティから地域の状況の聞き取り（2/3）
- ・新たなサロン立ち上げ支援（7/9・12/3）

オ 四季が丘地区

- ・四季が丘地区社協総会で福祉の情勢についての説明（5/15）
- ・サロン・ド・四季が丘世話人会議（12 回）

カ 原地区

- ・原地区役員から地域の状況の聞き取り（10/18）
- ・原まちづくり部会 定例会への参画および事業説明（11/16・12/2・11/18）

キ 平良地区

- ・平良コミュニティと事業説明および進め方についての協議（1/23・2/14・2/18・2/20・2/28）

ク 宮園地区

- ・宮園地区社協学習会で役員を対象に事業説明（7/16）
- ・宮園会（老人会）役員会と事業の進行に当たっての内容協議（11/4）

ケ 串戸地区

- ・串戸地区自治協から地域の状況聞き取り（2/1）

- (3) 佐伯地域
- ・佐伯地域（玖島・友和・津田四和・浅原・支所）合同ヒアリング（8/23）
 - ・佐伯地域生活支援体制整備事業説明会で4地区の代表者と支所、市民センター等への事業説明（2/10）
- (4) 吉和地域
- ・福祉座談会 1回
 - ・つくる会 4回
 - ・つくる会施設部会 2回
 - ・つくる会運営部会 5回
 - ・つくる会諏訪徹先生研修 1回
- 詳細は【吉和地域】P. 37
- (5) 大野地域
- ・大野区長連合会で事業説明（10/4）
 - ・大野地域福祉推進委員会で事業説明（1/27）
 - ・大野第8区で平成29年度協議体設立に向けての協議（12/13・1/25・1/27）
- (6) 宮島地域
- ・宮島事務所との連絡会議（6/23）
 - ・関係諸機関とのヒアリング（6/27）

[平成28年度重点的に取り組む事項]

- ・各地域で、協議体となりうる団体の検討を行い、各地域で1か所、コミュニティ単位での協議体の設置に向けた調整を行う。
- 各地域において、事業及び廿日市市の現状等説明、地域の実態についてアセスメントやヒアリングを行なった。少しずつではあるが、協議体の設置に向けた調整に取り組み、事業に対する理解を得ることができた。

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

福祉総合相談事業を入り口としたニーズ把握、ニーズに基づく事業の展開について、広報活動を行なった。

１ 福祉総合相談事業（自主・市補助 1,476千円）

市民の相談ごと、悩みなどの解決支援等のために、次の相談事業を行なった。

（１）心配ごと相談の実施

３２人の相談員を委嘱し、次のように「心配ごと相談所」を開設した。

地域	開催日時	場所	開催回数	相談件数
廿日市	毎週火・金曜日 (13:00～16:00)	廿日市市総合健康福祉センター (あいプラザ)	103 回	47 件
佐伯	毎週水曜日 (13:00～16:00)	佐伯社会福祉センター	51 回	11 件
吉和	原則第 1・2・3 水曜日 (13:00～16:00)	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	34 回	5 件
大野	毎週木曜日 (13:00～16:00)	大野支所	47 回	9 件
宮島	原則第 1・2・3 月曜日 (13:00～16:00)	宮島福祉センター	29 回	8 件

（２）福祉総合相談の実施

開設日時は、土・日・祝祭日を除く毎日 9：00～17：00。

（３）専門相談の実施

項目	協力機関・団体	開催回数	相談件数
司法書士法律相談	広島司法書士会広島西支部	合計 12 回 (廿)計 10 回 (大)計 2 回	43 件 (廿日市開催)
			10 件 (大野開催)
認知症介護相談	認知症の人と家族の会・廿日市	4 回	4 件
	認知症の人と家族の会・大野	12 回	16 件

（４）心配ごと相談員研修の開催

心配ごと相談員の専門性と資質向上のための研修会を開催した。

地域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
開催月	6 月・9 月・12 月・3 月	1 月	8 月	3 月	2 月

（５）全相談件数等の前年度との比較実績

項目	28 年度	27 年度
心配ごと相談件数	80 件	109 件
福祉総合相談件数	191 件	184 件
専門相談開設件数（司法書士・認知症）	73 件	70 件

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・相談傾向の分析を行い、全事務所でどのような相談があるかの傾向をつかむ。
- ・心配ごと相談業務を広く周知するために、市民センター等に「心配ごと相談」のポスターを掲示してもらう。

- ・「くらしの相談」が発行から丸10年を迎えるので、作成しなおす。またホームページにも相談機関へアクセスできる環境を整える。
- ・相談傾向の分析を現在行なっている。
- ・ポスター掲示は昨年度実施できなかったもので、引き続き平成29年度に取り組んでいく。
- ・「くらしの相談」については平成29年度中に更新の予定。

2 広報啓発事業（自主・共募3,083千円）

広報紙の発行やインターネットを利用した情報提供を通じ、市民や各種機関に広く市社協の取り組みや市内の福祉活動の動向をお知らせし、住民の福祉への関心を高め、福祉活動への協力者を増やした。

(1) 市社協パンフレットの発行

市社協事業の概要を掲載したパンフレットを各戸に配布し、市社協の事業を広く住民にお知らせした。

(2) 市社協だより「あいとぴあ」の発行

偶数月の1日に市社協だより「あいとぴあ」を新聞折込みなどで各戸に配布し、市社協の取り組みや行事案内、地域の福祉情報を広く住民にお知らせした。

(3) ホームページの運営

市社協の取り組みや行事案内、ボランティアの募集など地域の福祉情報をホームページに掲載し、タイムリーな情報を住民にお知らせした。

(4) 各事務所独自の広報紙の発行

[平成28年度重点的に取り組む事項]

- ・市社協広報紙「あいとぴあ」記事内容について、活動報告、募集内容、研修案内等と併せて、事業の方針や展開について発信していく。
- 身近な社協事業について取り上げた記事を連続掲載し、事業内容の発信に努めた。今後も活動報告記事等と合わせ、事業展開の特集記事の掲載を計画していく。
- ・ホームページの活用として、今後も随時「お知らせ」を更新し、分かりやすく実用的な「事業・サービス紹介」を増やしていき情報を発信していく。
- 行事案内やボランティア募集のほか助成金に関する情報、また地域の福祉活動情報など随時更新を行なった。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための 仕組みづくりを進めます

高齢や、障がい、その他さまざまな理由で社会的孤立しがちな対象者を見逃さないために、行政等からの委託事業、自主事業などを実施する中で、新たなニーズ発掘を行なった。

１ ファミリー・サポート・センター事業（市委託・自主 4,507千円）

多様化する福祉ニーズ、とりわけ少子高齢社会に対応するため、依頼会員と提供会員の橋渡しを行なった。また、活動を通して依頼会員と提供会員の間に“ほっと”なつながりや気軽に“SOS”が出せる関係づくりができることを目指した。

（ ）内は前年度実績

登録会員数	1,152 人【依頼会員 712 人、提供会員 390 人、両方会員 50 人】 (1,118 人【依頼会員 677 人、提供会員 388 人、両方会員 53 人】)
利用（活動） 実績	2,180 件【育児 440 件、介護 1,740 件】 (2,793 件【育児 741 件、介護 1,949 件】)
広報活動	「あいとびあ（市社協広報紙）」記事掲載（3回） 提供会員募集記事、研修会実施記事を掲載 「ファミサポだより」発行（2回） 各地区民生委員児童委員協議会の定例会・市社協ホームページで随時提供会員を募集
研修会・交流会 の開催	研修交流会開催（7 回・参加者 243 人） 研修会内容 6/10 子育てサポーター養成講座 6/30 研修交流会 高齢者にやさしい食事作りのひと工夫 9/14 幼児安全法・からだにやさしいおやつのおべつ方 11/ 2 子育てサポーター養成講座 12/12 研修交流会 目からうろこの非常食体験・災害時高齢者支援講習 1/12 発達障害の心のケア 1/20 ノロウイルス食中毒予防講習会 2/ 5 普通救命講習会

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・市民センター等に「ファミリー・サポート・センター」事業のポスターを掲示してもらい、事業のPRや提供会員募集に努める。
→市民センターへの掲示はできなかったが、FMはつかいちなどでの事業PRを行なった。
- ・活動中の事故防止のために、会員にヒヤリハットの報告をしてもらう。
→平成 28 年度、聞き取り表などの準備を計画していたが着手できなかった。

2 情報支援事業（市委託 1,775 千円）

聴覚や視覚に障がいのある人たちへの各種支援を実施した。

(1) 奉仕員の派遣

手話奉仕員、要約筆記奉仕員を派遣し意思伝達の手段を確保した。

聴覚障がい者への情報保障などのために、講演会、会議等へ手話奉仕員の派遣及び要約筆記奉仕員の派遣調整を行なった。

【手話派遣実績】

（ ）内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	269 件 (243 件)	504 時間 (391 時間)	26 人 (27 人)	23 人 (20 人)	28 人 (28 人)
団体派遣	23 件 (21 件)	40 時間 (41 時間)	—	39 人 (40 人)	—

【要約筆記派遣実績】

（ ）内は前年度実績

	件数	時間数	利用者数	実働者数	登録通訳者数
個人派遣	29 件 (49 件)	58 時間 (101 時間)	3 人 (4 人)	5 人 (9 人)	12 人 (14 人)
団体派遣	13 件 (13 件)	25 時間 (25 時間)	—	52 人 (52 人)	—

(2) 奉仕員の養成

ア 活動中の手話奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、手話奉仕員ステップアップ講座を開催した。

講座回数 全 1 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
3/16	障がい者差別解消法について	13 人

イ 活動中の音訳奉仕員のレベルアップを目指すことを目的に、音訳奉仕員勉強会を開催した。

講座回数 全 1 回 2 時間

開催日	内 容	参加者
10/7	発声の仕方、読み方の基本等について	21 人

ウ 要約筆記奉仕員養成講座を開催した。

講座回数 全 1 0 回 3 時間（計 3 0 時間） 参加者：8 人

(3) 情報の提供

視覚障がい者への音訳テープとして、「広報はつかいち」（毎月 1 日発行）、「さくらびあ物語」（奇数月 1 日発行）、「市議会だよりさくら」（5・8・11・2 月の原則 1 0 日発行）、「あいとぴあ」（偶数月 1 日発行）、点訳本として「広報はつかいち」（毎月 1 日発行）、「さくらびあ物語」（奇数月 1 日発行）、「市議会だよりさくら」（5・8・11・2 月の原則 1 0 日発行）「あいとぴあ」（偶数月 1 日発行）などを提供した。

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- 要約筆記奉仕員養成講座を開催する。
→要約筆記奉仕員養成講座を開催し、8 人の参加があった。参加者の中から、要約筆記奉仕員として 1 人、登録につながった。

3 視覚障がい者生活訓練事業 (市委託 182千円)

中途失明の視覚障がい者が日常生活で介助者を頼ることなく外出ができ、社会活動ができるようになるため、歩行訓練（愛命園に依頼）を行なった。

訓練人数 1 人 訓練回数 14回 28時間

4 リフトカー貸出事業 (市委託・自主 1291千円)

廿日市・佐伯・吉和・大野事務所に6台のリフトカーを配置し、移動の手段が一般車両では困難な市民や、福祉団体に貸出しを実施した。リハビリやスポーツ、美容院、家族との小旅行、当事者団体のつどい、講演会・会議への参加などに利用してもらうことができた。

【貸出し件数】 () 内は前年度実績

廿日市全域 6台	廿日市 2台	佐伯 1台	吉和 1台	大野 2台
454件(542件)	345件(356件)	71件(80件)	11件(60件)	27件(46件)

[平成28年度重点的に取り組む事項]

- ・貸出し車両の適正台数を調整する。
→大野事務所のリフトカーの老朽化に伴い、台数を調整した。
- ・事業の在り方について市と協議する。
→要綱改正について、事務局内で協議した。

5 車イス貸出事業

高齢者・障がい者及び緊急的に車イスが必要な人に、車イスを貸し出すことにより日常生活の利便向上に努めた。また、市内小中学校での福祉体験活動の用具として貸し出した。

【貸出し件数・台数】 () 内は前年度実績

廿日市全域	廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島
211件(227件)	165件(122件)	13件(15件)	5件(4件)	21件(72件)	7件(14件)
271台(264台)	201台(138台)	22台(24台)	5台(4台)	32台(82台)	11台(16台)

6 認知症高齢者等支援事業 (市委託・自主・共募 729千円)

認知症等になっても住み慣れた地域で暮らし続けることができる地域づくりを目指し、次のとおり事業を展開した。

(1) 認知症にやさしい地域づくりネットワークの形成

はいかいSOSネットワークを運営し、行方不明者の早期発見・保護に努めた。

対応件数	無事発見・保護件数	事前登録者数
8件	6件	181人

ア はいかいSOSネットワーク運営連絡会議の開催 (7/29)

イ 啓発活動の実施

関係諸機関と連携しながら啓発活動を実施した。

開催日	会場	内 容	参加者
10/6	ゆめタウン廿日市	はつかいち介護の日PRイベント	
10/15	日本赤十字 広島看護大学	「認知症になっても安心して暮らせる地域とは」 ～東日本大震災の経験から学ぶ～ 講師：東北福祉大学専任講師 認知症介護研究・ 研修センター主任研修研究員 矢吹 知之さん	400 人

ウ 佐伯区との連携会議

広域での搜索をスムーズにするため、佐伯区との連携会議を行なった。

(2) はいかい高齢者家族支援サービスの実施

位置検索端末機の貸出実績 6 台（保有台数 10 台）

(3) 認知症高齢者支援会議の開催

年 6 回、関係者が集まり、認知症関連事業の取組みについて協議した。

(4) キャラバン・メイト及び認知症サポーターの養成

ア キャラバン・メイト養成研修の開催（大竹市との共催）

・今年度から本市主催のキャラバン・メイト養成研修会の開催が中止となったため、受講希望者には広島県主催の養成研修会を案内した。

・広島県主催のキャラバン・メイト養成研修参加者 5 人

イ 認知症サポーター養成講座の開催（地域・職域・学校）

分類	受講団体	回数	受講者
地域	老人クラブ、サロン、町内会 他	8 回	191 人
職域	広島ひかり園	1 回	46 人
学校	日本赤十字広島看護大学、津田小学校、友和小学校、大野西小学校、廿日市小学校、廿日市中学校	8 回	588 人
計		17 回	825 人

ウ 地域別の取組み

(ア) 市域全体

・認知症サポーター養成講座の開催に当たり、各地域での活動状況の情報交換や、キャラバン・メイトのスキルアップに向けての講座等の企画を行なった。(2/17)

(イ) 廿日市地域

・キャラバン・メイト廿日市地域部会 (1/23)

・小学校での講座の推進のため教育委員会へ訪問。校長会での説明。

(ウ) 佐伯地域

・キャラバン・メイト連絡会等の開催

日時	内 容	参加者
7/29	佐伯・吉和地域キャラバン・メイト連絡会	9 人
9/20	佐伯地域キャラバン・メイト連絡会	8 人
10/11	佐伯地域キャラバン・メイト連絡会	10 人
10/23	「心と心のハーモニーフェスタ」で、寸劇上演及びパンフレット配布	9 人
1/23	佐伯地域キャラバン・メイト連絡会	5 人

(エ) 吉和地域

・吉和地域のキャラバン・メイトと地域包括支援センター、吉和地域の医療従事者、高齢介護事業所と連携し吉和文化祭でパンフレットなどを配布した。これを通じて、認知症の人への対応の仕方や正しい知識の周知に努めた。

(オ) 大野地域

- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会（4/27）
- ・キャラバン・メイト大野宮島地域部会プロジェクト（年5回）

[平成28年度重点的に取り組む事項]

- ・キャラバン・メイトの登録者数が増えていくなか、認知症サポーター養成講座に関わる人が限られており、キャラバン・メイトとして意識の向上及び活動を維持するため、メールや郵送で講座開催の案内や報告を発信していく。
- ・講座を開催する地域に、住居や職場があるキャラバン・メイト登録者に積極的に声をかけて負担の少ない役割で多くの人に参加してもらう。
→認知症サポーター養成講座開催時に、主催地域にいるキャラバン・メイトに参加してもらい、地域内にある福祉施設等資源の紹介等をしてもらうことで、地域住民とキャラバン・メイトとの顔つなぎができるように努めた。

7 生活困窮者自立相談支援事業【重点】（市委託・共募 18,900千円）

生活困窮者が抱える多様で複雑な問題について、生活困窮者からの相談に応じ、必要な情報提供及び助言を行うとともに、さまざまな支援を一体的かつ計画的に行うことにより、生活困窮者の自立への促進に寄与した。

(1) 活動実績及び件数

内 容	件数
新規相談受付	266 件
面談	1,226 件（新規・継続含む）
電話相談	665 件（新規・継続含む）
他機関との会議打合せ	237 件
自立支援計画作成	54 件（再作成含む）
自立支援計画評価	18 件（うち終結14件）
一般就労	26 件
住居確保給付金申請受付	3 件
一時生活支援事業申請受付	2 件
生活困窮者支援調整会議の開催	定期12回（毎月）、随時4回

(2) 出席会議及び研修会等

内 容	回数	職員人数
市内10地区民生委員児童委員協議会定例会	31回	31人
市民生委員児童委員協議会会長会議	1回	1人
居宅介護支援事業所連絡会（地域包括支援センター主催）	1回	1人
市福祉保健部内研修	2回	2人
地域福祉シンポジウム（市福祉総務課主催）	1回	4人
広島西圏域障がい者就労支援ネットワーク会議（広島西障がい者就業・生活支援センターもみじ主催）	1回	1人
はつかいち福祉ねっと相談支援部会（廿日市市障がい福祉相談センターきらりあ主催）	1回	1人
市社協心配ごと相談員研修会（佐伯）	1回	1人
市社協心配ごと相談員研修会（吉和）	1回	1人

市社協心配ごと相談員研修会（宮島）	1 回	1 人
市社協かけはし生活支援員研修会	1 回	1 人
FMはつかいち 出演	1 回	2 人
出張相談（市社協吉和事務所）	1 回	2 人
出張相談（市社協佐伯事務所）	1 回	2 人
生活困窮者自立支援制度人材養成研修 （相談支援員養成研修 厚生労働省委託 全社協主催）	1 回	1 人
生活困窮者自立支援会議（県社協主催）	2 回	3 人

8 福祉サービス利用援助事業（県社協委託，事業収入 8,148 千円）

判断能力が不十分で不安のある人が安心して地域生活ができるよう権利擁護を目的に福祉サービス利用援助、日常的金銭管理のお手伝い、重要書類等預かりサービスを実施した。また、制度について、医療機関、地域包括支援センター、福祉施設及び民生委員等への周知に努めた。

(1) 実施状況

ア 契約状況

新規相談：38 件（うち契約 17 件）

イ 地域別実利用人数

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
57 人	9 人	0 人	18 人	5 人	89 人

ウ 事業開始からの契約件数累計

	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
契約件数	129 件	31 件	64 件	23 件	248 件

エ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	その他	計
2,432 件	1,121 件	2,532 件	511 件	6,586 件

(2) 生活支援員の確保・研修の充実

ア 実施体制の充実

生活支援員が担当しているケースについては随時、情報共有、支援方針を検討する等、協議や連絡調整を重ねることで相互の信頼関係の構築と資質の向上に努めた。

イ 生活支援員人数（地域別）

廿日市	佐伯	吉和	大野	宮島	計
16 人	3 人	1 人	9 人	2 人	31 人

ウ 生活支援員の資質向上のための研修会を開催した。（年 2 回）

開催日	内 容	参加者
第 1 回 4/28	本事業の事業報告 「生活困窮者自立支援事業とかけはし事業との関わり」 講師：広島県社会福祉協議会 藤岡 忍さん	18 人
第 2 回 12/20	「パーソナルセンタードケアって」なあに？ 講師：社会福祉法人みどり会 府中みどり園 小代 桜さん	10 人

(3) 関係機関との連携強化

ア 福祉サービス利用援助事業運営連絡会議の開催（2/7）

広島弁護士会、リーガルサポートひろしま、廿日市金融機関懇話会、県西部厚生環境事務所、市福祉総務課、地域包括支援センター、障がい福祉相談センターきらりあ、民生委員児童委員協議会、県社協等による運営連絡会議を開催した。

イ ケース会議等の開催

多問題世帯や社会的孤立状態にある人など、対応に苦慮するケースについて、本人が置かれている状況等を、関係機関（地域包括支援センター、市行政関連部署、福祉施設、病院、民生委員児童委員等）で情報共有し、支援方針、役割分担等について協議するとともに、ネットワークの構築に努めた。様々なケースを通して、関係機関と連携して支援を行なったことで協力関係が強化された。

ウ やすらぎ支援員研修、はつかいち福祉ねっと相談支援部会等において事業説明を行なった。

(4) 組織内の連携強化及び担当職員の資質の向上

ア 福祉サービス利用援助事業の専門員及び担当職員を複数配置し、実施体制を強化するとともに、組織内の担当職員による会議の開催や情報共有等、連携して事業実施した。

イ 会議等開催、参加状況

主 催	運営連絡会議	1	ケース会議等	49
	生活支援員研修会	2	社協内担当者会議	7
参 加	専門員連絡会議	2	権利擁護部会研修会	1
	基礎研修	1	中国ブロック専門員研修	2

相談援助職としての技量の向上を目的とした中国ブロック専門員研修を受講。事例検討をもとに、地域のなかでの関係機関との連携について学び、専門員としての視点や知識・技術を習得した。

(5) 事業周知及びニーズの掘り起こし

ア サロンでの出前講座等を通じ事業の周知に努めた。

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・利用者が不安を軽減し、生きがいを得ながら地域で生活を送れるよう、幾つかの事例に対して重点的に、利用者と地域との接点づくりについて担当課と各事務所、職員複数人で取り組む。

→個別ケースごとに生活支援員による支援を開始したり、地域住民にボランティアで利用者と関わってもらう等、利用者と地域社会との接点作りに取り組んだ。また、各ケースの進捗状況や成果を事務局職員で共有した。

9 法人後見事業（自主 794千円）

認知症、知的障がい及び精神障がい等の理由で判断能力が不十分な人が地域で安心して暮らし続けられるよう、本会が法人として成年後見人等を受任し、必要な支援、調整等の後見事務を行なった。

(1) 事業の運営

ア 法人後見事業運営委員会の開催

法人後見事業を実施するに当たり、受任の適否の判断、事業の指導を行い、事業実施における適正さの担保のため開催した。

開催日	内 容	出席者
2/7	全国及び県内、市内の福祉サービス利用援助事業及び法人後見事業の実施状況報告 講演：成年後見制度利用促進法と同促進基本計画について 講師：日本弁護士連合会 副会長 水中 誠三さん	19 人

イ 法人後見事業後見支援会議の開催

本会が成年後見人等候補者になることの適否について協議するため、1 回開催した。

ウ 職員研修等

県社協主催の研修及び成年後見制度推進会議等に参加し、動向の把握、担当職員の資質向上に努めた。

エ 後見支援員の育成

後見支援員設置要綱の整理に伴い、現在受任している被後見等について、福祉サービス利用援助事業利用中から支援にあたっていた生活支援員を後見支援員として委嘱した。

登録人数 2 人

活動状況：対象者 3 人に対し、延べ 27 回の支援にあたった。

(2) 実施状況

ア 年度末における受任ケースの内訳（事業開始からの累計）

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
0 人 (2 人)	2 人 (2 人)	0 人 (1 人)	2 人 (5 人)

全て後見類型、廿日市地域在住者

イ 訪問、窓口、電話等による相談・調整・支援件数（ ）内は前年度実績

認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	計
188 人 (106 人)	91 人 (136 人)	84 人 (0 人)	363 人 (242 人)

ウ 事業開始からの受任等件数（事業開始からの累計）

項目	件数	項目	件数
候補依頼受付	0 件 (8 件)	候補承諾	1 件 (8 件)
申立	1 件 (6 件)	受任	1 件 (5 件)
報酬付与申し立て	3 件 (4 件)	終了	3 件 (3 件)

エ 意識啓発・広報

集会所等で実施されているサロンでの事業説明を通して、事業実施について周知するとともに、権利擁護について意識啓発を行なった。

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・安定した事業運営ができるよう、事務局職員及び後見支援員の資質向上に努める。
→県社協主催の担当者連絡会議への出席や、法人後見事業運営会議で促進基本計画について受講し、制度の動向把握、知識の共有に努めた。
- ・安全にかつ適正に後見事務を遂行できるよう、財産管理及び各種手続き等における業務の標準化、マニュアル作成に取り組む。
→日常業務については、かけはし事業でのリスク管理ツールを活用、準用し、危機管理に取り組んだ。
→家庭裁判所への各種申立手続き等について、専門職へ確認、または職能団体が発行しているマニュアル等を参照しながら、事務マニュアルの充実を行なった。

10 緊急生活安定資金貸付事業 (自主 216 千円)

緊急に生計の維持が困難になった世帯に対し生活費を貸し付けることにより、経済的自立及び生活の安定を目指した支援を行なった。また必要に応じて、地域包括支援センター等から意見を聴取し、自立に必要な相談支援を行なった。

【貸付実績】

件数	金額
10 件	215,000 円

11 生活福祉資金貸付事業 (県社協委託 1,683 千円)

低所得者・障がい者・高齢者等に対して、資金の貸付と民生委員による必要な援助指導を行うことにより、生活の自立と安定、経済的自立及び生活意欲の向上、促進を図り、生活の自立と安定に向けた支援を県社協と共に行なった。

また、日常生活全般に困難を抱えた失業者等に対して、生活の立て直しのための継続的な相談支援と貸付けにより自立を支援した。

- ・償還につながるよう借受人、連帯借受人、連帯保証人、民生委員と連携し、状況の把握に努めた。
- ・県社協からの送付文書により残額の通知、滞納者に対する督促を行なった。

申請等実績	相談件数	申請件数
生活福祉資金	142 件	10 件
臨時特例つなぎ資金	0 件	0 件

〔廿日市・佐伯・吉和地域〕

1 2 障がい児者指定居宅介護等事業 (自主・廿日市・佐伯・吉和 22,725 千円)

障がい児・者の自己決定を尊重し、地域で安心して暮らせるよう障がい児・者福祉の推進に努めた。

(1) 訪問介護員の派遣

在宅障がい児・者世帯に対する訪問介護員の派遣を行なった。

ア サービス利用時間数 () 内は前年度実績

身体介護	家事援助	移動(視覚)	移動(知的)	移動(全身性)
2557.5 時間	85.5 時間	23.5 時間	6564.0 時間	1640.0 時間
(1276.5 時間)		(130.5 時間)	(6500.5 時間)	(1770.0 時間)

イ 契約者数 () 内は前年度実績

区分	児童	知的障がい者	身体障がい者
契約者数	12 人(11 人)	86 人(87 人)	21 人(21 人)

ウ ヘルパー数 () 内は前年度実績

サービス提供責任者	1 人 (1 人)
登録ホームヘルパー	98 人 (73 人)
視覚障がい者ガイドヘルパー	68 人 (67 人)
知的障がい者ガイドヘルパー	45 人 (47 人)
全身性障がい者ガイドヘルパー	86 人 (85 人)

(2) 研修の実施

開催日	内 容	参加者
5/10・6/8	廿日市市消防署による救命講習	15 人
7/7	講演会「発達障害のある人・支援のあり方」について	24 人
2/12	なちゅは広島 負担のないケア技術セミナー	3 人
2/26	「勉強会」 交流、事例検討など	18 人

(3) 関係機関との連携

ア 行政や他事業所と連携を取りながら請求事務を行うほか、担当者会議に出席し相談支援業務への協力に努めた。

イ 利用者のニーズを把握すると共に、市社協の他活動や事業を活かした対応に努めた。

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・支援の問題点を抽出し、改善に努める。
→支援中の「困り事」について勉強会で話し合い、現場で実行し改善できた。
- ・各事務所（廿日市・佐伯・吉和）の連携をより深める。
→佐伯・吉和在住のヘルパーでは対応できない時に、廿日市在住のヘルパーを派遣した。また、その逆の例もあった。

基本目標（５） 多様な主体の強みを生かした 新しい支えあいを育てます

災害時の生活支援をキーワードに、様々な団体との連携を強めた。市内での団体に活動助成を行い、つながる中での新たな取り組みの創出を行なった。

１ 災害救援事業（公募・市補助 104千円）

- (1) 「廿日市市被災者生活サポートボラネット」推進会議の開催及び運営を行なった。

開催日	内 容	参加者
5/17	今年度の取組みについて	23 人

- (2) 講演会（研修会）を開催した。

開催日	内 容	参加者
6/19	災害時に活かす地域のつながり 講師：広島県防災アドバイザー 横山 ゆかりさん	50 人

- (3) 廿日市市被災者生活サポートボランティアセンター設置訓練を実施した。

開催日	内 容	参加者
8/21	被災者生活サポートボランティアセンター 設置訓練 串戸地区	56 人
2/18	被災者生活サポートボランティアセンター 設置訓練 市社協職員全体研修	20 人

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・小地域でのボランティアセンター設置訓練を実施する。
→串戸地区でこれを実施した。また、市社協職員全体研修でも、同様の訓練を行ない、より多くの職員で課題意識を共有することができた。

２ 福祉人材育成事業（自主・県社協助成 1000 千円）

- (1) キャリアスタート（中学生）の受け入れ

地域福祉課で、廿日市中学校 2 年生 3 人の受け入れを行なった。

- (2) 社会福祉士受験にかかる社会福祉援助技術実習の受け入れ

社会福祉士等の国家資格取得に対する実習生の受け入れを行なった。

機関等	時間	人数
文化学園大学	180	1 人

- (3) 廿日市市地域人材確保体制整備事業（新規）

ア 福祉、介護人材の確保のため、廿日市市福祉・介護人材確保等総合支援協議会を新規で立ち上げ、2 回開催した。

【構成団体】老人福祉施設連絡協議会、訪問介護事業所連絡会（障がい部門）、ハローワーク、県担当課、市関連部署、県社協、市社協

開催日	内 容	参加人数
9/29	広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会の活動状況等について 廿日市市福祉・介護人材確保等総合支援協議会の設置について 情報共有：廿日市市域における福祉・介護人材確保に関する現状等について	15 人
3/7	平成 29 年度以降の活動等について	13 人

イ 廿日市市・大竹市「福祉・介護職場の就職面談会」の開催

開催日	12/4	面談者延べ人数	49人
参加事業所	15	本面談会を通じた採用	6人
求職者	31人	-	-

ウ 情報提供活動：

平成 28 年 6 月から、コミュニティ FM としての FM はつかいちを利用し、福祉現場の活動や話題、人材確保に向けての行動、養成などを月 2 回発信した。

3 日本赤十字社社資募集協力事業 (日赤 1,449 千円)

赤十字事業の趣旨及び必要性の周知を行い、社資（社費・寄付金）を募集した。5 月を社資募集運動月間として、目標額 13,926,000 円に対し、達成率は 76.5%（前年度：77.6%）であった。

また、火災などの災害に対し救援物資を送付するとともに、国内外で発生した台風・地震・大雨などの大規模災害への義援金・救援金募集および周知を行なった。

- ・日赤社資募集実績（ ）内は前年度実績

一 般 社 資
10,659,379 円 (10,813,138 円)

4 共同募金運動協力事業

共同募金が民間福祉活動を支える重要な財源であるという趣旨の周知徹底を図り、赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金活動を展開し、目標額 13,586,000 円の対し、達成率は 99.9%（前年度：99.5%）だった。

(1) 赤い羽根共同募金運動、歳末たすけあい運動、地域テーマ募金実施（10月～3月）

(単位：円)

	廿日市	佐 伯	吉 和	大 野	宮 島
戸別募金	4,184,782	1,068,750	195,265	2,488,110	208,100
街頭募金	12,315	0	0	0	43,276
法人募金	261,000	110,000	131,000	192,352	10,504
学校募金	36,973	27,351	0	21,975	0
職域募金	157,948	16,007	20,217	80,953	22,239
イベント募金	32,367	34,471	0	5,966	0
その他募金	149,335	158,473	21,483	0	66,500
歳末募金	0	1,084,450	0	2,538,981	200,200
合 計	4,834,720	2,499,502	367,965	5,328,337	550,819

総計 13,581,343 円（前年度 13,459,452 円）

- (2) 地区別地域福祉推進会議でのPRの実施
(3) 共同募金委員会運営委員会、審査委員会の開催

5 福祉団体等支援事業（自主・共募 3,473 千円）

福祉団体が実施する福祉事業に対し、活動に対する助成を行うことにより住民福祉活動及び自主運営の促進に努めた。

(1) 福祉団体へ助成金の交付

ア 全域

（単位：円）

廿日市市老人クラブ連合会	100,000	ささえ愛ネットはつかいち	200,000
福祉教育活動費助成（市内の各小・中学校対象）	570,000		

イ 廿日市地域

（単位：円）

社会福祉法人くさのみ福祉会	50,000	重度障害児者のつどい「ジョイフル」	120,000
虹の会	10,000	廿日市市民生委員児童委員協議会	100,000
ささえ愛ネット廿日市支部	265,000		

ウ 佐伯地域

（単位：円）

機能訓練会「あけぼの会」	30,000	精神障害者家族会「こぶし会」	30,000
ボランティアグループ「ひまわり会」	50,000	在宅障害児音楽療育「パレット」	20,000
在宅介護者の会「リフレッシュクラブ」	20,000	さいき障がい児と親の会「みかん」	20,000
わんぱく旅行実行委員会	782,000	心と心のハーモニーフェスタ実行委員会	675,000
精神障害者サロン「ちゅうりっぷの会」	20,000	コミュニティ活動支援（玖島・友和・津田四和・浅原）	40,000

エ 吉和地域

（単位：円）

ボランティア吉和（ささえ愛ネットはつかいち吉和支部）			5,000
----------------------------	--	--	-------

オ 大野地域

（単位：円）

大野ボランティア連絡協議会（ささえ愛ネットはつかいち大野支部）	154,000	大野障がい者団体連絡協議会	80,000
---------------------------------	---------	---------------	--------

カ 宮島地域

（単位：円）

宮島町食生活改善推進協議会	20,000	地域ふれあいフェスタ実行委員会	110,959
---------------	--------	-----------------	---------

(2) 各団体との協働事業

開催日	場所	内 容	参加者
6/17	ゆうわ せせらぎ園	市社協事業説明（市社協職員による説明） （地域作品展&介護相談会）	20 人

(3) 福祉関係団体事務支援事業

福祉関係団体の事務や事業の支援を通して自立運営を支援した。

ア 吉和地域：老人クラブ・障害者福祉協会

イ 宮島地域：老人クラブ・障害者福祉協会・宮島町遺族会

【廿日市地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティア活動・福祉教育推進事業（自主・市補助・共募 743千円）

市内の小・中学校等が取組む福祉教育活動を支援し、子どもたちが地域に目を向け、学校と地域との連携を図り、心の通うまちづくりへの推進に努めた。

- (1) 市内各学校が実施する福祉体験学習への各種支援（相談・ボランティア調整・体験指導・機材貸出等）をした。

開催日	内 容	対象者
7/25	車いす体験（飛来行・8人）	廿日市中学校

- (2) 小中高校・特別支援学校の体験学習（施設見学の際のボランティア説明）受入れをした。

開催日	対 象 者	人 数
6/6	平良小学校 4年生	106人
6/8	廿日市小学校 4年生	125人
10/12	金剛寺小学校 6年生	20人
11/24	地御前小学校 4年生	71人

- (3) ボランティア活動推進事業

福祉活動の担い手であるボランティアの活動が円滑に進められるよう次の支援を行なった。

ア ボランティア活動推進体制の整備をした。

イ 個人ボランティアに対する積極的な情報と、活動の場の提供をした。

ボランティア情報の提供 延べ70件

ウ 大学との応援会議の実施・連携強化・入門講座や出張講座の開催

(ア) 応援会議を開催した。

開催日	内 容	参加者
4/19	今年度の取組みについて	山陽女子短期大学・日本赤十字 広島看護大学・市協働推進課・ 市社協 17人
5/26	第1回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字 広島看護大学・市協働推進課・ 市社協 15人
7/16	第1回ボランティア講座反省会	山陽女子短期大学・日本赤十字 広島看護大学・市協働推進課・ 市社協
9/29	第2回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字 広島看護大学・市協働推進課・ 市社協 10人
11/10	第2回ボランティア講座について	山陽女子短期大学・日本赤十字 広島看護大学・市協働推進課・ 市社協 11人
3/13	第2回ボランティア講座反省会	山陽女子短期大学・日本赤十字 広島看護大学・市協働推進課・ 市社協 8人

(イ) 学生のためのボランティア入門講座を開催した。

開催日	内 容	参加者
7/16	・ボランティアしてみよう！ - 乳幼児とのふれあい！ - 高齢者デイサービスでのお手伝い！ - 障がい児と楽しもう！ - 手話でコミュニケーション！ - 見えないってどういうこと？ ・交流会で意見交換	25 人
12/10	・ボランティアしてみよう！ - 乳幼児とのふれあい！ - 高齢者デイサービスでのお手伝い！ - 障がい児と楽しもう！ - 手話でコミュニケーション！ ・交流会で意見交換	26 人

(ウ) ボランティア出張講座を開催した。

開催日	内 容	対象者
7/23	ボランティアの心得と責任	NPO 法人看護アカデメイヤ幸
7/5	ボランティアについて	日本赤十字広島看護大学
7/11	ボランティア論 目的・意義・地域	山陽女子短期大学
11/26・30	ボランティア活動について	佐伯地区ろうあ協会

エ 他事業（遊びの教室、サロン事業）と連携したボランティア育成をした。

(ア) 遊びの教室へのボランティア派遣

(イ) サロンへのボランティア派遣

オ ささえ愛ネットはつかいちの協力を得て、小中学校のボランティア体験学習を実施した。

開催日	内 容	対象者
6/8	車いす体験（飛来行）	廿日市小学校
6/8	点訳体験（点訳グループあい）	廿日市小学校
6/8	手話体験（阿品台手話サークル）	廿日市小学校
7/25	車いす体験（飛来行）	廿日市中学校

カ ささえ愛ネットはつかいちの活動支援

(ア) 活動助成金の交付

ささえ愛ネットはつかいち及び各支部に助成し、活動の促進に寄与した。

(イ) ボランティア交流会（大野支部担当）を開催した。

5/28 参加者 11人

(ウ) 熊本地震へ募金を実施した。

5/30 金額 50,000円

キ ボランティア活動保険掛金の助成をした。

ク 各地域の福祉まつりへのボランティア参加を支援した。

ケ 国際救援衣料収集の実施

身近で取り組みやすいボランティア活動を推進することを目的に、衣料等の収集活動を通じ、ボランティア活動のきっかけとなるような取り組みを実施した。

・収集した衣類を、日本救援衣料センターを通じ海外の衣料を必要とする人たちに送付した。

- ・廿日市市国際交流協会との共催で1回実施した。(昨年度は2回実施)
- ・大学生、地域のボランティアグループ、個人ボランティアの協力を得た。

() 内は前年度実績

実施日	収集件数	協力人数	送料用寄付金額
10/29	ダンボール 245 箱 (379 箱)	20 人 (27 人)	124,830 円 (183,548 円)

コ 使用済み切手収集の実施

使用済み切手を収集し、誕生日ありがとう運動本部へ切手を送付した。また、切手仕分け作業を登録ボランティアへ紹介し、活動へとつないだ。

サ その他研修会等を実施した。

開催日	内 容	参加者
7/25	認知症サポーター養成講座	1 人

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・きめ細かくボランティア情報を提供していく。
- ・ボランティア活動者のためのスキルアップ講座を開催する。
→ボランティア情報をきめ細かく提供し、市民のボランティア活動に繋げることが出来た。スキルアップ講座は福祉教育を行うことによりボランティアと学生の相互作用が生まれ交流も図れ知識を伝えることができた。

2 遊びの教室事業 (廿日市 自主・共募 223 千円)

長期休暇中の在宅障がい児に家庭だけでは体験できない豊かな経験の場、学校の枠を超えた交流の場を提供するとともに、家族の負担軽減を目的として、春休みに1回・夏休みに6回・冬に1回実施した。多くの民生委員児童委員や学生ボランティアに関わってもらい継続して参加するボランティアが学生も含めて増えてきた。また毎回楽しみにしている子どもたちが多く、学生ボランティアの活動のきっかけになっている。

開催日	内 容	場 所	参加者 (子ども)	Vo・スタッフ (職員含む)
4/5	午前:お弁当を作ってお花見に行こう 午後:スポーツレクで楽しもう	あいプラザ・ゆめ桜公園	10 人	20 人
8/4	宮島水族館見学	宮島	17 人	31 人
8/5	佐伯の川で遊ぼう	佐伯 戸屋原	8 人	21 人
8/18	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	8 人	6 人
8/19	おやつ作りとこども喫茶	あいプラザ	7 人	12 人
8/23	午前:うどんづくり 午後:はつぴいまつり	あいプラザ	13 人	17 人
8/24	午前:うどんづくり 午後:はつぴいまつり	あいプラザ	9 人	14 人
12/17	午前:昼食作り 午後:クリスマス会	あいプラザ	13 人	18 人

[平成 28 年度重点的に取り組む事項] ・ボランティアを含め参加者が楽しく参加できる事業展開とする。 →楽しいだけではなく、障がいのある子も「担い手」となれる場面作りとしてのこども喫茶を企画し多くのお客さんに喜んでもらった。

3 精神保健福祉事業 (廿日市 共募 12千円)

精神保健福祉ボランティア「ねこの手」の活動支援及び新規ボランティア養成のための講座を開催した。

開催日	内 容
3/23	精神保健福祉事業普及啓発講演会 精神障がいのある人の理解者として～知ることから始まる地域の支え～ 日本赤十字広島看護大学 准教授 笹本 美佐さん

4 地域のつどい・サロン支援事業 (自主・共募・市補助・県社協補助 2,522 千円)

高齢者、障がい者、子育て世代などさまざまな人を対象としたサロンの活動推進・拡大を目的に事業を展開し、地域の当事者による取組みを支援した。

(1) 集い（サロン）関係者を対象とした研修会の実施

ア 一般・サロン関係者を対象とした支援

開催日	内 容
6/30	熱中症予防講座
10/31	三原市大和町常設サロン「ひよりやくわなし」訪問研修
12/22	地域リハビリテーションに関する勉強会

イ 地域のサロンの自主運営を目指し、継続的に開催されるための支援

取組み	内 容
レクリエーショングッズ貸出し	活動に必要なレクリエーショングッズの貸出し実施 (135 件)
各種助成金案内	・計 4 件助成 (ささえあい活動助成 1 件、地域のつどいサロン支援助成 3 件) ・他財団助成金情報の案内
保険案内	サロン開催時におけるケガ等の補償のためのボランティア行事用保険、活動保険の案内
相談対応	各種相談対応 (38 件)
広報活動	・「あいとびあ (市社協広報紙)」記事掲載 ・各地区民生委員児童委員協議会の定例会等にてサロン世話人のためのおしゃべりサロン参加呼びかけ ・市社協ホームページ掲載 ・おしゃべりサロンNEWS 発行 (6回)
サロン訪問	21 ケ所 (計 38 回)

(2) 情報共有・不安解消のため、地域ごとのサロン交流会の実施

ア サロン世話人のためのおしゃべりサロンの開催

サロン活動の充実と、世話人同士で悩みや喜びを共有することを目的に、サロン世話人を対象とした交流会を実施した。世話人同士の横つながりができただけでなく、新規

立ち上げサロンや新任世話人への情報提供をスムーズに行うことができた。

開催日	内 容	参加者
4/27	サロンをやっている良かった♪交流会	13 人
6/30	暑〜い夏を元気に乗りきろう講座 (ファミリー・サポート・センター研修と合同開催)	12 人 (延べ 31 人)
8/29	各種情報提供、サロン紹介、レクグッズ体験会&交流会	15 人
10/31	三原市大和町常設サロン「ひよりやくわなし」世話人と交流 (訪問研修)	8 人
12/22	登録ボランティアの紹介・地域リハビリテーション勉強会	8 人
2/23	市からの情報提供・百歳体操の体験や参加者交流会	7 人

(3) ワイワイ交流会の企画

市域全体のサロン関係者が介して、サロンの役割やレクリエーションについて学ぶ機会を企画した。

開催日	会場	内 容	参加者
12/1	あいプラザ	サロンで役立つレクリエーション	28 人

(4) 小地域のお茶の間づくり事業の推進 (県社協委託事業)

県社協が実施する「あんしんサポートリーダー研修」への参加や、お茶の間サロンの運営支援を行なった。また、指定を終了しているサロンについても、支援を継続した。

(ア) 指定状況

阿品台地区 (1 年目)

(イ) あんしんサポートリーダー研修 (県社協主催)

参加者 1 回目：4 人、2 回目：5 人

(ウ) あんしんサポートリーダー情報交換会

参加者 6 人

基本目標 (2) 組織 (主体) の意識や活動を進化させます

1 小地域ネットワーク事業【重点】(自主・共募・市補助 260 千円)

地域の福祉課題は地域で解決できる体制を確立していくために、様々な地域の取組みのバックアップをした。

- (1) 地区福祉部会 (地区社会福祉協議会やコミュニティ推進協議会の福祉部会等) に対し事務局活動費を助成し、活動の活性化に努めた。
- (2) 地域福祉推進団体が実施する視察研修先との調整及び視察研修へ同行した。
2/22 アイラブ佐方福祉事業部 安佐南区毘沙門台学区社協同行
- (3) 地域福祉推進団体の総会、勉強会などで市社協事業などの取組み説明や福祉ニーズの聞き取りなどを行い、各種事業の周知の他、地域住民の福祉に関する意識向上に努めた。

開催日	開催地区	開催場所	内 容	参加者
4/27	佐方地区	佐方市民センター	安心してこの地域で暮らし続けるために	40 人
7/16	宮園地区	宮園市民センター		50 人

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

・廿日市地域で「福祉の会」を 1 か所立ち上げる。

- ・市地域政策課と連携しながら、これまで接点のなかった地区へのアクセスと地域の福祉ニーズの掘り起こしを行う。
- 市地域政策課、市福祉総務課など地域づくりにかかわる課と「業務連携会議」を2か月に1回開催し、情報の交換を行うことで、地域アクセスがスムーズに行われるようになった。

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 あいプラザまつり（廿日市 自主・共募・市補助 494千円）

「生涯学習フェスティバル」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/6	あいプラザ及び新宮中央公園	約 4,800 人	326 人

1 F 作業所コーナー、3 F ボランティア体験コーナー、屋外バザーコーナーの3部門合同企画会議を開催し、実施内容の充実化、協働の強化に努めた。【新規】

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 不登校・ひきこもり支援事業【重点】（廿日市 自主・共募 345千円）

不登校・ひきこもりの子どもや若者、家族が相談できる場や居場所の開催を継続して行なった。居場所は、不登校・ひきこもり支援ボランティア「かたつむり」に協力してもらった。

居場所では、ボランティアセンターから依頼の切手の整理などのボランティア活動にも取り組み始めた。

(1) 親の会の開催

10回開催 延べ参加者 69人（昨年度40人）

(2) 居場所の開催

毎週火曜日開催 延べ参加者数 162人（昨年度94人）

延べボランティア参加者 162人（昨年度122人）

参加者は不登校児より、ひきこもり傾向にある人のほうが多かった。

安心して自由な時間を過ごしてもらい、元気を取り戻してもらうことを目的とした居場所では、自立への1歩として月1回はクッキングの日とし、簡単にできる調理を行ない、好評だった。

(3) 講演会・学習会の開催

（ ）内は相談会参加者

開催日	内 容	実施場所	参加者
11/26	【講演会&相談会】 「不登校・ひきこもり 家族が越える5つの関門」 講師：登校拒否と教育を考える函館アカシアの会 代表 野村 俊幸 さん	あいプラザ	50人 (11人)

(4) 親の会通信の発行

2回

[平成28年度重点的に取り組む事項]

- ・ホームページなどを通じ親の会や居場所のPRを行う。

→FMはつかいちなどでのPRは行なったが、平成28年度にはホームページでの

事業紹介ができなかった。

- ・市教育委員会のスクールソーシャルワーカー（ＳＳＷ）やＮＰＯ法人など関係機関との連携に努める。

→ＳＳＷとのつながりの中で、不登校の子どもへのボランティアの調整を行なった。

【佐伯地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主・共募 444 千円）

- (1) ボランティア調整（派遣）及び活動支援
ボランティアに関する相談に応じ、ボランティアの調整（派遣）と活動支援を行なった。
- (2) れすとはうす「花かご」の管理運営
世代間交流やサロン開催、文化活動、相談活動等、ボランティア活動の拠点施設として、管理運営を行なった。また、年 1 回、花かごパンフレットを発行した。

【れすとはうす「花かご」利用実績】 () 内は前年度実績

開館日数	内 容	来館者
211 日 (200 日)	・ボランティア活動（おもちゃの会、手話でおしゃべり、朗読の会、あけぼの会、リフレッシュクラブ） ・文化活動（パッチワーク、牛乳パック工作、編み物楽彩クラブ、リフォーム） ・ふれあいサロン（たまたまぼこ、ちゅうりっぷの会、おしゃべり広場、放課後サロンぶどう） ・行事（草抜き＆茶話会、花植え、やさい市、フリーマーケット等）	延べ 2,496 人 (2,562 人)

- (3) ボランティア連絡協議会「ひまわり会」運営連絡会の開催 年 2 回
- (4) ボランティア養成研修の実施
ボランティアやサロン世話人、関心のある人を対象に今後の活動の幅を広げるための講座を開催した。

開催日	内 容	参加者
3/10	ボランティア養成講座 「コミュニケーション麻雀講習会」	25 人

- (5) ヤングボランティアスクールの開催
年間を通して、ボランティア活動に関心のある中・高・短大・大・専門学生を対象にボランティア活動、交流、体験等を行なった。

開催日	内 容	参加者
7/23	「水まつり」での「みかん」バザーの手伝い等	16 人
7/24	「わんぱく旅行事前交流会①」障がい児・者の見守り	10 人
8/4	「遊びの教室」障がい児の見守り	3 人
8/5	「わんぱく旅行事前交流会②」障がい児・者の見守り	7 人
8/9	「さいきせせらぎ園夏まつり①」の手伝い	5 人
8/10	「さいきせせらぎ園夏まつり②」の手伝い	6 人
8/18	「大野小さな夏まつり」障がい児の見守り	5 人
8/20・21	「わんぱく旅行」障がい児・者の付添・見守り	4 人
10/18	「みかんデイキャンプ」障がい児の付添・見守り	8 人
10/25	「心と心のハーモニーフェスタ」スタッフとしての体験	26 人
12/3	「わんぱく旅行バスハイク」障がい児・者の付添・見守り	7 人
12/18	「みかんクリスマス会」障がい児の見守り	6 人

夏休みに小学生を対象としたボランティア体験学習「ふれあい探偵団」を開催した。

開催日	内 容	参加者
7/27	宿題教室「本立て、メッセージボード作り」、福祉施設との交流「友和の里」	14 人
8/8	手話講座「手話サークルみなみ」 手話発表・交流「さいきせせらぎ園」	8 人

2 障がい児・者福祉支援事業 (自主 128 千円)

(1) 障がい児地域支援の実施

関係機関と連携し、未就学から学童期それぞれのライフステージで障がいのある子どもたちに、どのような支援や関わりが必要なのかを協議し、当事者やその家族に対して活動支援を行なった。

(2) わんぱく旅行実行委員会への協力 (共募 782 千円)

障がい児・者の社会参加の促進、保護者の交流・情報交換の場として、旅行や交流会を実施した。

開催日	内 容	実施場所	参加者
5/19	第 1 回実行委員会 (予算・行き先等の方針決定)	佐伯社会福祉センター	14 人
7/24	事前交流会 1 ①ボランティア・参加者の顔合わせ と交流(料理・ゲーム) ②療育相談と学習会 講師：賀茂精神医療センター 療育指導室 元山 淳さん	津田市民センター	当事者：8 人 家 族：13 人 ボランティア：28 人
8/5	事前交流会 2 川遊び	戸屋原集会所	当事者：3 人 ボランティア：13 人
8/20・21	「わんぱく旅行(宿泊)」 ・くだまつ健康パーク ・しものせき水族館 海響館	山口県 (下松市・下関市)	当事者：10 人 家 族：14 人 ボランティア：21 人
12/3	「わんぱく旅行(日帰り)」 ・松田園(ミカン狩り)	山口県(周防大島)	当事者：4 人 家 族：6 人 ボランティア：18 人

3 精神障がい者福祉支援事業 (自主・共募 65 千円)

(1) 当事者支援の実施

精神保健福祉ボランティアグループ「そよ風」の活動支援を行なった。また、当事者家族のおしゃべりサロン「こぶし会」定例会に出席して活動支援を行なった。

(2) ボランティア養成

精神保健福祉講座の開催

開催日	内 容	実施場所	参加者
3/3	テーマ：こころの病気の理解と支援 (うつ病について) 講 師：串戸診療クリニック デイケア「叶え」 主任 精神保健福祉士 岩田 卓郎さん	津田市民センター	18 人

4 地域のつどい・サロン支援事業 (市域全体予算として 2,709 千円)

- (1) レクリエーショングッズの貸出し (69 件)
- (2) 「ひまわり日和」でのサロンの活動状況などの広報活動
- (3) サロン連絡会議 (第 1 回) 6/22 14 人

講座：ミニ講座「お茶の間サロン」

～ふれあいサロンとの違い。支え合う地域づくり～

講師：広島県社会福祉協議会 地域福祉課 豊永 真智さん

参加者：14 人

サロン連絡会議 (第 2 回) 2/22 11 人

講座：ミニ講座「応急手当講習会」

講師：廿日市消防署佐伯分署 土田 晋さん、古川 裕崇さん

参加者：15 人

- (4) ふれあいサロン助成金交付 2 か所

- (5) 音楽サロン「オルゴール」浅原・友和・玖島・津田各地域で毎月 1 回開催

開催日	実施回数	実施場所	参加者
毎月第 1 月曜日	11 回	浅原市民センター (共催行事)	延べ 149 人
毎月第 2 金曜日	12 回	友和市民センター (共催行事)	延べ 405 人
毎月第 3 水曜日	12 回	玖島市民センター (共催行事)	延べ 148 人
毎月第 4 金曜日	12 回	津田市民センター (共催行事)	延べ 247 人

※津田市民センターでは津田保育園児の参加による世代交流。

- (6) 「赤ちゃんすくすく広場～0 歳児の子育てサロン～」について、子育て支援ネットワークと連携を取りながら、企画・運営を支援した。

- (7) 小地域のお茶の間づくり事業の推進 (2 年目) 【重点 1】

県社協が実施するあんしんサポーターリーダー研修への参加を促し、お茶の間サロン運営の支援を行なった。

- ・お茶の間サロン「花かご」のハード面・ソフト面の整備。
- ・県社協主催の「あんしんサポーターリーダー研修」へ 1 回目は 2 人、2 回目は 3 人のボランティアと参加。
- ・世話人会議 (毎月 1 回) に参加。
- ・先進地訪問研修 (大竹市金彩サロン) の調整及び随行。

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・「れすとはうす花かご」を活動拠点に、福祉活動実践者を「あんしんサポーター」に位置づけ、ボランティアセンター機能や福祉サービス利用援助事業等の住民参画による総合的な社協活動を展開しながら、様々な生活ニーズに即応できる仕組みづくりに取り組む。
- 「あんしんサポーター」と協議連携し、お茶の間サロンの常設化に取り組み、新たに 1 グループが毎週 1 回「れすとはうす花かご」で活動を始めた。
- 過疎が進みサロンが開催されていない地区を民生委員児童委員などの関係諸機関と調整し、所山・中道の両集落へ出前サロンを開催した。
- サロンの重要性や地域で支え合うことの大切さを改めて考えていただくように連絡会議やミニ講座を企画・開催した。

基本目標（２） 組織（主体）の意識や活動を進化させます

1 地域福祉活動事業（自主 225 千円）

(1) 福祉委員活動推進事業の実施

地域住民と協力して福祉活動を実践し、助け合いのネットワークを進めるため、福祉委員活動を推進した。

福祉委員	107 人
福祉委員会	地域の現状や福祉課題を把握するため開催
内 容	4/25 玖島地区・友和地区 4/26 浅原地区・津田四和地区・全地区合同 議題：市社協事業計画、福祉委員活動、日赤事業及び社資募集、社協会費募集について（参加者延べ 33 人）
	9/27 浅原地区・津田四和地区 9/28 玖島地区・友和地区・全地区合同 議題：市社協事業報告、日赤社資・社協会費募集状況、共同募金・歳末たすけあい募金について（参加者延 35 人）
その他の活動	地域のサロン、敬老会などの取り組みや「わんぱく旅行（宿泊・日帰り）」、「心と心のハーモニーフェスタ」への協力と参加、民生委員児童委員と連携したニーズ把握

(2) 福祉施設等連絡会の開催

佐伯地域での施設間の交流・連携を図り、共通の問題を取り上げ、今後の取組みについて検討した。また、佐伯地域ケア会議との連携に努めた。

開催日	内 容	参加団体数
6/10	平成 28 年度の取り組み、ヤングボランティア、施設の現況報告等について協議 親睦会を兼ねて、「心と心のハーモニーフェスタ」、施設のまつり等について協議	7
10/28	「心と心のハーモニーフェスタ」の反省会	7
1/27	平成 28 年度の取り組み状況等について協議	8

※佐伯地域ケア会議（毎月第 4 水曜日）参加

(3) 福祉施設職員相互研修の開催

市内の福祉施設に勤務する職員延べ 26 人が、他施設で 1 日～2 日間を過ごし、情報交換や交流ならびに研鑽に努めた。（延べ参加日数 23 日）

期間	参加施設
8/1～ 10/31	（廿日市地域）くさのみ作業所、ピクトハウス、さくら作業所、デイサービスセンター清鈴園、デイサービスセンター第 2 清鈴園、障害者支援施設原、デイサービスセンター光の園、広島西こども発達支援センターくれよん （佐伯地域）ゆうわせせらぎ園、広島ひかり園、友和の里、夢工房、にじのえき、津田子供の家 （大野地域）望海の里、洗心園、ラ・メール大野、あいあい作業所

(4) 広報啓発活動の実施

奇数月月上旬、佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」を発行した。

(5) 過疎地域における福祉活動とその関わり **【重点2】**

関係機関との連携により、過疎地域における福祉活動の活性化を図った。

【平成 28 年度重点的に取り組む事項】

- ・佐伯支所をはじめ、民生委員児童委員協議会や地域の福祉施設など関係諸機関と連携し、過疎地域における福祉問題やニーズを探りながら、各地域における社会福祉活動事業を推進させる。
 - 佐伯地域コミュニティ推進団体連絡協議会や佐伯地区民生委員児童委員協議会などを対象に生活支援体制整備事業説明会を行ない、玖島・友和・津田四和・浅原地区でそれぞれの課題を整理し、課題解決のために関係機関と連携できる体制づくりについて協議した。
 - 過疎が進みサロンが開催されていない地区を民生委員児童委員などの関係諸機関と調整し、所山・中道の両集落へ出前サロンを開催した。

基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 地域福祉活動事業（基本目標（2）－1 再掲）

広報啓発活動

佐伯地域の福祉情報紙「ひまわり日和」の発行

2 心と心のハーモニーフェスタ（団体助成事業：自主・共募 675 千円）

実行委員会形式で実施し、54 団体が参加した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/23	さいき文化センター	約 2,300 人	200 人

- ・ささえ愛ネットはつかいち佐伯・廿日市・大野支部の協力により、手話・点訳の体験コーナーを設置した。同時に、ボランティア活動及びサロン活動を紹介した。
- ・佐伯地域の社会福祉施設などが参加し、市民と交流ができた。
- ・佐伯中学校吹奏楽部やソーラン部による協力を得て、ステージ発表を行なった。
- ・佐伯高等学校生徒会による総合司会で、ステージ発表や参加団体のインタビューなどを行い、会場全体を盛り上げることができた。

【吉和地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進・福祉教育推進事業（廿日市・吉和：自主・市補助・共募 823千円）

吉和中学1年生が総合的な学習で取り組んでいる「福祉プロジェクト」について、生徒が地域の福祉課題等を学び、自主的な活動を考えられるよう吉和地域の高齢者施設と協働し、支援を行った。

内 容	協働団体	支援回数
相手を知って 考え 動く 高齢者の願いを叶える	よしわせせらぎ園	10 回 (内施設訪問 3 回)

2 地域のつどい・サロン支援事業（市域全体予算として 2,709 千円）

吉和地域のサロンの支援を行なった。

開催日	サロンの名前	内 容	回数	参加人数
毎週金曜日	囲碁のつどい	囲碁の好きな人のサロン	36 回	110 人
隔週月曜日 冬季 毎週月曜日	カラオケサロン	歌が好きな人のサロン	27 回	172 人
第2水曜日 冬季 毎週水曜日	よりあいサロン	手芸の好きな人のサロン	18 回	67 人
冬季のみ 毎週水曜日	よしわ ふれあいサロン	冬期の閉じこもり防止を目的 にしたカラーリング等の実施	12 回	219 人
随時	広報活動	「すこやかプラザまつり」で の活動紹介等のパネル展示 社協だより「ぬくもり」紙上 でのサロン参加者の募集、活 動報告	「ぬく もり」 12 回 発行	全戸配布
随時	レクリエーション 用具貸出	各サロンへのカラーリング やペタンク、スロービー等用 具の貸し出し	17 回	—

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 すこやかプラザまつり（共募 25千円）

「吉和文化祭」と同日開催した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
11/5	吉和福祉センター (すこやかプラザ)	約 200 人	6 人

- ・支所、地域包括支援センター、よしわせせらぎ園、廿日市人権擁護委員、ヘルスメイト、健康はつかいち21、廿日市市消費生活センター、廿日市市吉和公衆衛生推進協議会及

びボランティア吉和と協力してスタンプラリーを実施した。

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

１ 多機能サロン「すこやかサロン」実施事業【重点】（自主・共募 432千円）

高齢者サロン、福祉作業所、障がい者デイサービス、子育て中の親子の行き場といった多目的な要素を併せ持ったサロンを運営することで、地域や自宅で孤独感を感じず、また心身ともに健康な生活ができる場づくりを行なった。

開催回数	開催場所	内 容	参加者
月 3 回 (延べ 36 回)	吉和福祉センター 吉和保健センター 他	ラジオ体操/折り紙/血圧測定/食事作り/ パステルアート/DVD鑑賞/散歩/文化 祭作品準備及び見学/書き初めなどの季 節の行事/スポーツ体験/雑談 他	延べ 334 人

２ 知的障がい者生活訓練教室開催事業（市委託 283千円）

日常生活上必要な訓練・指導、社会参加の促進や生きがい作りを行なった。

開催日	内 容	場 所	参加者
4/2	社会参加 ・ボランティア吉和とアルミ缶の整理及びレ クリエーション	吉和福祉センター	15 人
4/19	社会参加 ・食事作り、お花見	クヴェーレ吉和	10 人
6/28	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション（七夕飾り）	吉和福祉センター	9 人
7/5	社会参加 ・食事作り、レクリエーション（食推共催）	鍛冶屋川集会所	9 人
8/20	交流 ・ボランティア吉和交流会に参加	吉和福祉センター	35 人
9/4	社会参加 ・障がい者スポーツ大会に参加	廿日市市スポーツ センター	23 人
9/6	社会参加 ・食事作り、レクリエーション	吉和福祉センター	14 人
10/25	社会参加 ・吉和寿司作り	吉和福祉センター	10 人
11/5	外出訓練、社会参加 ・すこやかプラザまつりでのコーナー出店	吉和福祉センター	15 人
11/29	社会参加 ・食事作り、レクリエーション（食推共催）	第一集会所	8 人
1/17	生活訓練・体験 ・書初め、レクリエーション	吉和福祉センター	10 人
2/28	社会参加 ・食事作り、レクリエーション（雛飾り）	吉和福祉センター	10 人

3/28	生活訓練 ・食事作り、レクリエーション（食推共催）	吉和福祉センター	7人
------	------------------------------	----------	----

延べ回数：14回 延べ人数：184人

3 障がい者スポーツ教室開催事業（市委託 13千円）

障がい者スポーツを通じて障がい者の自立と社会参加を図り、また、小学生や地域の人と一緒に「障がい者スポーツ」をすることにより、障がい者と地域の人との交流をの場づくりに努めた。

開催日	内 容	当事者	小学生	その他
8/24	車いすバスケット・フライングディスク・玉入れ 講師：障がい者スポーツ指導員 渡部 安彦さん	7人	13人	6人

4 障がい者地域社会交流事業（吉和 共募・市補助 136千円）

障がい者手帳保持者を対象とし、一人では外出することが難しい障がい者に対して外出支援、社会参加目的とした「日帰りバスハイク」を実施した。

開催日	場 所	対象者・家族	ボランティア・職員
3/3	周南市「道の駅」周辺	8人	5人

5 いきいき活動推進事業（自主・共募 399千円）

中山間地域・過疎地域に見合った地域課題やニーズから、地域への取組みへと発展させるために市と連携を図りながら様々な事業を展開した。

(1) あつまろう家（ひとり暮らし等高齢者懇談会）実行委員会への助成

ひとり暮らしなどの高齢者の集う場づくりのため、民生委員児童委員・ヘルスメイトグループ・コミュニティよしわ・ボランティア吉和・女性会と協働し実施を支援した。

開催日	場所	内 容	参加者
6/13	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・平成28年度の活動計画 ・平成27年度の事業報告・反省事項ほか	7人
8/25	開催： 吉和福祉センター 調理： 吉和保健センター	あつまろう家開催 ・廿日市警察署山田巡査部長による「特殊詐欺」について ・吉富有美さん・吉岡真理さんによる「おさんぽギャラリー」について ・食事：三食そばろごはん・白身魚の竜田揚げ・ほうれん草のごま和え・にゅう麺・パフェ	70人 (対象者41人、協力者29人)
12/13	吉和福祉センター	あつまろう家実行委員会 ・前回の振り返り ・次回の計画について打合せ	7人

3/29	開催： 吉和福祉 センター 調理： 吉和保健 センター	あつまろう家開催 ・ 廿日市警察署山田巡査部長による 「特殊詐欺」について ・ 廿日市消費者協会による 「消費者トラブル」について ・ 妹尾ご夫妻による 「ミニコンサート」 ・ 食事：花寿司・チキンカツ・具たくさん野菜きの こ汁・ようかん	74 人 (対象者 40 人、 協力者 34 人)
------	--	---	---------------------------------

(2) 生涯暮らし続けられる吉和地域を考える福祉座談会等の支援

吉和地域に生涯暮らし続けるために、地域住民を中心に行政、専門職等の協働による地域包括ケアシステムづくりを推進していくため、下記のとおり会議等を行なった。

	開催日	部会名	参加者	内 容
1	4/15	第 2 回運営部会	16 人	・ 泊りの施設運営について ・ NPO 法人について
2	5/20	第 7 回つくる会	18 人	・ 運営部会経過報告について ・ NPO 法人設立について ・ 高齢者施設（泊りの施設）について
3	6/17	第 3 回運営部会	18 人	・ NPO 法人の定款について ・ 利用料について
4	6/30	つくる会研修会	47 人	講演：大好きな吉和でいつまでも笑顔で暮らすために ～住民にしかできないこと～ 講師：日本大学文理学部 教授 諏訪 徹さん
5	7/15	第 4 回運営部会	20 人	・ NPO 法人の定款について ・ 利用料について
6	8/19	第 5 回運営部会	21 人	・ NPO 法人の定款について ・ 利用料について
7	9/9	第 8 回つくる会	20 人	・ NPO 法人の定款について ・ 利用料について ・ NPO 法人設立に向けて NPO 法人の名称について
8	10/31	第 9 回つくる会	14 人	・ NPO 法人「ほっと吉和」の正会員・賛助 会員募集について
9	11/11	第 6 回福祉座談会	31 人	・ 生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会 の経過 報告について ・ NPO 法人「ほっと吉和」会員等の募集に ついて
10	11/16	第 4 回施設部会	10 人	・ 高齢者施設の備品検討
11	11/30	第 5 回施設部会	13 人	・ 高齢者施設の備品検討

12	2/17	第 10 回つくる会	21 人	・ N P O 法人「ほっと吉和」 会員登録状況について ・ 今後の会員募集について ・ 部会（人材部会・泊りの施設部会）の開催について
13	3/23	第 6 回運営部会	10 人	・ 人材センター登録会員について ・ 人材センター事業の作業単価について（報告） ・ 泊りの見守り事業（登録会員）説明会について

(3) 子育てサロンの開催

支所市民福祉グループ・市民センターと共催して、すこやかサロンと同時開催した。

開催日	内 容	参加人数
7/12	ヨガ教室	9 人
9/6	空き缶つぶし	15 人
10/18	パステルアート	9 人
1/17	書初め	10 人

(4) 福祉車両の貸出し

地域の福祉団体等に「たすけあい号」の貸出しを行うことで、自主活動を支援した。また、安全に車両を利用していただくために適切な車両管理を行なった。

貸出実績：1 1 2 件

(5) 社協だより「ぬくもり」の発行

毎月 1 日、「ぬくもり」を発行し全戸配布した。これによりボランティア募集、地域活動の予定及び活動報告等の情報を地域に発信した。

(6) 葬儀用具の貸出し

自宅や集会所等の地元で葬祭を執り行う場合に、社協が所有する葬祭用具一式の貸し出しを行なった。

貸出実績 5 件

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・ 生涯暮らし続けられる吉和地域をつくる会については、これからの吉和地域になくてはならない福祉資源として、後方支援（情報収集・情報提供・啓発研修など）をしていく。
→調整会議：1 1 回。 研修会：1 回。 福祉座談会：1 回と後方支援を行なった。これにより、特定非営利法人が立ち上がり、吉和地域に新たな社会資源ができた。

【大野地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 ボランティアセンター活動推進事業（自主 232千円）

(1) ボランティア活動の推進拠点である「ボランティアセンター」の機能強化を図り、ボランティア（個人及びグループ）が活動しやすいよう、相談・需給調整・養成・広報紙の発行など条件整備を進めた他、「ボランティアニュース」を年6回（偶数月1日）発行し、大野地域の全戸に配布した。

(2) ボランティア学園の開催

小学生全学年を対象として募集し、多くの人との交流・体験を通し、福祉・ボランティアに対する意識を高めた。

また、ボランティア連絡協議会や地域内の福祉施設、中学・高校生徒会の参画により、世代間を越えた交流を促した。あわせて、障がい者団体や家族会、中学生などと協働で、「小さな夏まつり」のスタッフとして活動できた。

開催日	内 容	参加者
7/27	入園式 手話体験	17 人
7/28	音訳・点訳・アイマスク体験	16 人
8/1	施設訪問介護体験（Aグループ：洗心園）	11 人
8/2	施設訪問介護体験（Bグループ：アダージョ）	9 人
8/18	「小さな夏まつり」への参画	18 人

(3) 児童・生徒が取り組む地域社会貢献活動に対する助成金の交付や活動支援

ア 空飛ぶ車いす活動の支援

宮島工業高等学校生徒会による、故障した車いすを修繕して開発途上国に提供するボランティア活動「空飛ぶ車いす活動」を支援した。

イ ビッグフィールド大野隊の活動支援

小・中・高校生で構成された市民活動団体「ビッグフィールド大野隊」の地域福祉活動を助成した。

ウ おおの健康福祉フェスタへの協力

- ・宮島工業高等学校インテリア科による「手作りおもちゃコーナー」
- ・宮島工業高等学校機械科による「バッテリー電車コーナー」
- ・大野東・西小学校児童と民生委員児童委員と協働で食べ物コーナーを出店

エ 小さな夏まつりの実施

「小さな夏まつり」を宮島工業高等学校、中学校生徒会と障がい児者団体の協働企画で実施した。

オ 大野ボランティア連絡協議会との協働

大野ボランティア連絡協議会と協働で以下の取組みを実施した。

(ア) ボランティアのつどい

開催日	場所	内 容	参加者
7/12	大野福祉 保健センター	学習会「笑顔で過ごすために」 講師：山口県東部ヤクルト販売㈱	31 人
3/10	呉市	社会見学と親睦	27 人

(イ) ボランティア体験学習

開催日	場所	内 容	ボランティア
4/28 6/16	大野西小学校	大野西小学校 6 年生 (95 人) のボランティア体験学習に協力 (手話・点訳・音訳・ガイドヘルプ)	延べ 40 人
9/29 10/13 10/19 12/27 1/13	大野東小学校	大野東小学校 3 年生 (137 人) のボランティア体験学習に協力 (手話・点訳・ガイドヘルプ)	延べ 50 人

カ 関係団体との協働

関係団体と協働で大野東小学校 3 年生の介護学習に協力した。

(ア) 介護体験学習

開催日	場所	内 容	ボランティア
1/13	大野福祉 保健センター	大野東小学校 3 年生 (137 人) の介護学習に協力 ・車イス…老健施設「べにまんさくの里」、「いもせ聚楽会」(4 人) ・ガイドヘルプ…音訳「エコー」(5 人) ・工作…県介護福祉士会 (6 人) ・おやつ…母子保健推進員 (15 人) ・健康体操…万年青会女性部 (6 人)	36 人

2 障がい児・者地域生活支援事業 (自主・共募 145 千円)

(1) 障がいのある子どもを育てる家族の「おしゃべり会」を開催

開催日	開催場所	内 容
5/24・7/7 9/8・11/15・ 1/17	大野福祉 保健センター	障がいのある子どもを育てる家族が自由に集い、お互いの子育てについての情報交換や交流の場を提供。

(2) 当事者活動の支援

当事者組織と連携し、本人たちが豊かに生きていける地域づくりを目指す取組みを実施した。

開催日	実施項目	内 容
5/21・7/16 9/24・11/26 1/21・3/11	職場体験実習	廿日市市高齢者ケアセンターの協力で、一般就労の職場体験を行なった。体験者一人に一人「ジョブコーチボランティア」が付き添い、見守り及び声かけを行なった。
5/27・10/28 3/24	喫茶「ぽっぽ」	高齢者ケアセンター内の喫茶「ぽっぽ」で昼食を提供。
6/31・11/29 2/28	鍋奉行	高齢者の集い「サロン阿品」での昼食作りの連絡調整を行なった。
7/23	ボランティア活動	2 区ふれあいサロン (さわやか会) でのカレー作り。
10/6	ボランティア活動	介護の日の P R 活動にフジグランナタリーで啓発品の配布。

9/21・12/14	お化粧品教室	ヤクルト化粧品の協力を得て、阿品清鈴園の入所者へのお化粧品ボランティアをした。
------------	--------	---

(3) 大野障がい者団体連絡協議会の支援

ア 会議への参加

会議に参加し、意見交換、活動の助言、及び情報共有を行なった。

イ 小さな夏まつりの開催協力

障がい者との交流やふれあいの場として、大野障がい者団体連絡協議会、宮島工業高等学校、地元中学校等との協働により、8月18日に「小さな夏まつり」を企画・実施し、約300人（内ボランティア42人）が参加した。

ウ 交流会の開催協力

障がい者の交流会の開催にあたり、関係各所との調整等、さまざまな形で協力した。

(4) 精神保健福祉ボランティアの発掘・育成

ア 本人やその家族の自主活動や自主活動グループの組織化を支援

毎月実施の「精神障がい者ソーシャルクラブ（プラム）」の取組みに対して、保健師と連携をとりながら協力した。

イ 精神保健福祉ボランティアの育成、発掘

精神障がい者等への理解を深めるために、市民を対象としたボランティア講座として、対人援助技術や社会資源を学ぶための講座を開催した。

回	開催日	内 容	参加者
1	10/18	社福）清風会サンライフ（精神障害者就労施設）を見学し、障がい者の就労の場と地域の関わり方について学ぶ	15 人
2	3/21	テーマ：大野地域での精神保健福祉活動について 講 師：あいあい作業所 所長 武地 成章さんとメンバー	28 人

(5) ソーシャルクラブ「プラム」への協力

ボランティア活動の場を確保するため、ソーシャルクラブ「プラム」へのボランティア調整を行なった。

回	開催日	内 容	ボランティア
1	4/19	お弁当を作ってお花見	0 人
2	5/17	外出（広島城）	4 人
3	6/21	交流会	3 人
4	7/19	ボウリング	6 人
5	8/9	絵手紙	0 人
6	9/21	交流会	3 人
7	10/14	外出	2 人
8	11/15	クリスマス会飾り作り	3 人
9	12/16	クリスマス会	3 人
10	1/17	初詣、書初め大会	4 人
11	2/21	映画	1 人
12	3/21	調理実習	0 人

3 地域のつどい・サロン支援事業（市域全体予算として 2,709 千円）

地区福祉部会・老人クラブを主体とした高齢者サロンの推進や、当事者による「セルフヘルプサロン」（当事者による相互支援サークル）の取組みを支援した。

さらに県社協指定事業の「社協型活動総合推進事業(小地域のお茶の間づくり)」について、各区の取組みを支援した。

(1) ふれあいサロン(各区)に助成金交付 11か所

(2) セルフヘルプサロンへの活動支援

- ・大野ソーシャルクラブ「プラム」(精神保健福祉サロン)への協力(再掲)
- ・障がい児を育てる家族の会「おしゃべり会」を開催

(3) ふれあいサロン活動概況調査 年1回

(4) 小地域のお茶の間づくり事業の推進(県社協委託事業)

県社協が実施するあんしんサポートリーダー研修への参加を促した他、各区でのお茶の間サロンの運営(助成を含む)及び立ち上げ支援を行なった。

ア 指定状況

2年目 第4区・第10区

3年目 第7区・第8区

イ あんしんサポートリーダー研修(県社協主催)参加者 延べ24人

ウ あんしんサポートリーダーフォローアップ研修(県社協主催)参加者 4人

エ あんしんサポートリーダー情報交換会(3/14)参加者 11人

オ レクリエーション用具の貸出 36件

カ レクリエーショングッズ体験会開催(10/24) 51人

[平成28年度重点的に取り組む事項]

- ・県社協の「地域のお茶の間づくり」事業の指定終了地区に対する支援延長
→県社協の「地域のお茶の間づくり」事業の指定終了地区に対し、年間15,000円を2年間助成する延長支援を実施した。
- ・お茶の間サロンの活動定着に向けた支援
→県社協が主催するあんしんサポートリーダー研修の受講を促したり、あんしんサポートリーダーの情報交換会を開催することにより、お茶の間サロンの中心となる人材の養成に努めた。

基本目標(2) 組織(主体)の意識や活動を進化させます

1 ふれあいのまちづくり推進事業【重点】(共募 5,402千円)

お互いが「気にかけてあげる」「支えあえる」地域づくりを目指し、地区の福祉部会をはじめ、さまざまな団体協議や情報交換を行う大野地域福祉推進委員会の運営等を行なった。

さらに、大野地域福祉活動を住民に周知していくため、広報紙(ふれまちだより)の発行や、イベント(おおの健康福祉フェスタ)を企画した。

(1) 大野地域福祉推進委員会の運営

ア 地域福祉推進委員会の開催

開催日	会場	内 容	参加者
6/23	大野支所	・大野地域福祉推進委員の委嘱について ・平成27年度地域福祉推進事業報告 ・平成28年度地域福祉推進事業計画 ・大野地域福祉推進研究協議会について ・グループワーク「地域の社会資源について考えてみる」	20人
1/27	大野支所	・第36回地域福祉推進研究協議会について ・廿日市市生活支援体制整備事業について	21人

イ 地域福祉推進研究協議会の開催

開催日	会場	内 容	参加者
3/4	大野福祉 保健センター	基調講演 「災害に備えて地域で考えておきたいこと」 日野ボランティアネットワーク 山下 弘彦さん 事例紹介 「災害に備えた地域の取組みを知ろう」 廿日市市 福祉保健部 福祉総務課 山根 博文さん 第8区自主防災会 横田 光男さん 特別養護老人ホーム洗心園 高垣 恵美子さん	150 人

(2) 個別課題解決に向けた取組み

ア 関係機関との情報共有

地区民生委員児童委員協議会定例会や地域ケア会議などの各種会議へ参加し、関係機関との情報共有に努めた。

イ 各担当者が、それぞれの地区と連携し、小地域での課題把握に努めた。

(3) 小地域ネットワークづくり

ア 各区との連携

地域福祉活動推進事業助成金や各区福祉活動事業費（一般会費総額の70%）を助成した。また、各区及び地区民生委員児童委員協議会が行う訪問視察研修などの調整・同行などを通じて、区との連携に努めた。

イ お互いが気にかけるための仕組みづくり

(ア) 環境美化活動（花いっぱい事業）

市民の交流と生きがいを目的に、市内の障がい者福祉施設で育てた花の苗を地区環境美化推進のために栽培・管理しながら福祉コミュニティの形成をめざした。

花苗配布日	品種	数量
5/26	サルビア、マリーゴールド、日々草、ベゴニア	2,550 個
10/27	パンジー、葉牡丹、ノースポール	2,550 個

(イ) 地区給食サービスへの助成

区福祉部会を主体とした互助の取組みとして、ひとり暮らし高齢者や障がい者世帯へ安否確認も兼ねて給食弁当を宅配する活動に対して、その経費の一部を助成した。

実施地区	回数	人数
第2区	10 回	317 人
第5区	8 回	154 人

ウ 福祉部会への支援

地域で行われている「ふれあいいきいきサロン」「見守り活動」の実施主体となる福祉部会に対し助成を行なった。

(4) 広報・イベント等の実施

ア 広報啓発活動の実施

地域の福祉活動を広く広報する「ふれまちだより」を年6回（偶数月1日）発行し、大野地域の全戸に配布した。

イ おおの健康福祉フェスタの企画・実施

大野地域での健康と福祉に関する集いとして、おおの健康福祉フェスタを企画・実施した。

[平成 28 年度重点的に取り組む事項]

- ・地域福祉推進委員会で地域包括ケア推進についての検討を進める
→第 2 回の大野地域福祉推進委員会において、事業の概要説明を実施し、地域の福祉関係者の理解を深めた。
- ・地区環境美化活動の福祉施設への委託方法の変更
→大野地域内に新たに開設された就労継続支援 B 型事業所に対し、大野地域の西部エリアの事業委託を行なった。

基本目標（3） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 ふれあいのまちづくり推進事業(基本目標（2）－1 再掲)

(1) おおの健康福祉フェスタ

「福祉ふれあいまつり」と「健康を守る集い」とを同日開催し、参加者全員が楽しみながら、福祉に関する正しい理解と認識を深め、自分の健康を増進する力を高めることを目的としたイベントを実施した。

開催日	会場	来場者	ボランティア
10/2	大野体育館及び 大野市民センター周辺	約 1,500 人	200 人 ※前後の準備・撤収ボランティアを含む

基本目標（4） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 高齢者等移送サービス事業 (共募 584千円)

通院や買物などの日常生活の利便向上や社会参加の促進を図るため、交通不便地域を含む大野地域全域を対象として、巡回車両を運行した。

【巡回車両の運行・利用実績】（毎週火曜日、第 2・4 木曜日 午前・午後各 2 便の運行）
（ ）内は前年度実績

午前 1 便	午前 2 便	午後 3 便	午後 4 便
30 人(25 人)	59 人(49 人)	22 人(25 人)	93 人(100 人)

【宮島地域】

基本目標（１） 社会参加や役割発揮のための人づくり参加の入口づくりを進めます

1 地域のつどい・サロン支援事業（市域全体予算として 2,709 千円）

宮島地域

サロン名	開催日	開催場所
サロンにきんさい	毎月 2 回 第 1・3 水曜日	宮島市民センター
すずめ会	毎月 11・25 日	杉之浦市民センター

基本目標（３） 地域の問題解決に必要な情報を共有します

1 地域ふれあいフェスタ（団体助成：自主・共募 110 千円）

福祉関係団体・ボランティアなどと協働し、「手作り感」を意識して開催した。福祉関係団体の活動を展示コーナーで紹介することにより、相互理解を深めた。

開催日	会場	来場者	ボランティア
8/5	宮島福祉センター	約 200 人	103 人

基本目標（４） 社会的孤立を見逃さないための仕組みづくりを進めます

1 高齢者自立支援事業【重点】（自主・共募 242 千円）

概ね 70 歳以上のひとり暮らし高齢者や生活に不安を感じる高齢者世帯を対象に、関係機関と協働し、地域見守り活動も兼ねて実施した。

(1) 高齢者給食サービス事業の実施

宮島町食生活改善推進協議会と協働し年 6 回、3 つの地域に会場を分けて実施した。

開催日	場所	対象者	参加者
4/19・6/21・7/19 10/18・1/17・2/21	中西集会所 宮島市民センター 宮島福祉センター	概ね 70 歳以上の ひとり暮らし高齢者	延べ 110 人

(2) ひとり暮らし高齢者懇談会の開催

山口県東部ヤクルト販売出前講座と宮島消防署から講師を招き、生活に必要な情報の提供を折りこみながら実施した。

開催日	場所	内 容	参加者
5/17	宮島市民センター	協力：宮島町女性会 『骨粗しょう症予防教室』 講師：山口県東部ヤクルト販売	14 人
12/20	宮島福祉センター	協力：宮島地区民生委員児童委員協議会 『火災予防について』 講師：宮島消防署	13 人

(3) あんしんほっとコール事業の実施

ひとり暮らしに不安を抱える5人の高齢者世帯に対して、希望される曜日や時間に電話による定期連絡を行い、安否確認や見守り活動を実施した。

(4) 歳末みまもり事業の実施

ひとり暮らし高齢者、母子家庭世帯などを対象とした126世帯に、年末にお赤飯などを手渡しし、声かけを行なった。

[平成28年度重点的に取り組む事項]

- ・給食サービス、懇談会について、協力団体から対象者へ案内を配布しているが、各団体と連携を図り、参加者以外の情報を収集し、孤立発見につなげる。
→協力団体への対象者に関する情報の収集。参加の呼びかけを行なった。
- ・あんしんほっとコールについて、利用者の生活状況等の確認を行い、見守り活動を推進していく。また、当事業について、地域情報誌や、行事ごとの場にて説明を行い、周知を図るとともに、利用者の増加につなげる。
→希望された曜日と時間に連絡を行い、安否確認と健康状態の把握を行なった。当事業について、地域の広報誌等により島民に周知した。

2 福祉コミュニティ支援事業 (自主・共募 17千円)

福祉コミュニティづくりを目的とした住民参加型の支援事業を実施した。

(1) 紙門松配布事業の実施

従来の門松等の虚礼を廃止し、資源保護などを目的に紙門松を配布した。

配布時期	配布世帯	配布枚数
11/29	877 世帯	1,754 枚

(2) 葬儀用具貸出事業 (宮島 自主 5千円)

生活改善による葬儀の簡素化や地域コミュニティづくりのため、貸出事業を継続した。

貸出件数 0件

～円滑な事業推進体制のために～

「市民生活に即応した社協の仕事をどのように市民に提示できるか」、そうした基本認識の下で、計画目標を持った適正な執行管理を実現し、地域福祉の具現化を図るため、自立した「ありたい廿日市市の地域福祉の姿」の創出を目指した。

1 職員人材育成事業

職員の人材育成として、これからの市社協の方向性を共有するため、常勤職員、嘱託職員及び非常勤職員を対象に「職員全体研修会」を4回を開催した。

また、新規採用職員を対象に、市社協職員として必要な基本的知識を習得させるため、会長、事務局長、総務課及び地域福祉課職員を講師として「新規採用職員研修会」を6回開催した。

併せて、県社協主催の各種研修や関連団体等が開催するテーマ別の専門研修などに積極的に参加させるなど、市社協を担う人材の育成に重点を置いて実施した。

(1) 職員全体研修会

開催日	テーマ・内容
6/25	・研修会報告 ・講演会「今日的生活福祉課題と目指すべき社協活動」 講師：ルーテル学院大学 名誉教授 和田 敏明さん
9/10	・「生活支援体制整備事業の取り組み」の基本的考え方 ・「生活支援体制整備事業」の実際 ・グループワーク ・グループワークでのまとめや今後の進め方などの全体共有
11/26	・研修会報告 ・講演会 「生活困窮者自立支援事業を社会福祉協議会が実施する意味」 講師：東広島市社会福祉協議会相談支援係長 兼権利擁護センター係長 東広島市生活支援センター 主任相談支援員 邑岡 徹哉さん
2/18	・災害ボランティアセンターについて ・モデルケースのシミュレーション

(2) 新規採用職員研修会

開催日	テーマ・内容
4/25	・就業規程と廿日市市社会福祉協議会組織について ・廿日市市福祉保健行政と相談窓口について 講師：廿日市市福祉保健部次長 弘胤 堅二さん ・社協職員に求められる働き方 講師：市社協 迫本 孝昭 事務局長

5/19 5/24	・社会福祉法人について ・理事会、評議員会、監事について ・改正社会福祉法の説明 ・理事会の傍聴（5/19） ・評議員会の傍聴（5/24）
6/7	・社会福祉と社会福祉協議会に関する基礎知識 社会福祉の変換・戦後社会福祉の体制と社協について知ろう 講師：社協 蛭江 紀雄 会長
6/28	廿日市市社会福祉協議会の計画を知ろう ・中期経営計画と地域福祉活動計画 ・平成 28 年度事業計画
9/12	廿日市市社会福祉協議会の事業を知ろう ・ボランティア事業について ・ファミリー・サポート・センター事業 ・生活困窮者自立支援事業 ・福祉サービス利用援助事業と権利擁護事業
3/3	廿日市市社協の予算・決算状況を知ろう ・決算書、事業報告、予算要求事務等について ・共同募金、日赤、賛助会員について

2 自主財源の確保・組織のPR事業

寄付・会費という地域福祉への参加・貢献の動機づくりと、会員に対しての謝意を表するため、市社協の団体会員並びに賛助会員のお名前をあいプラザ正面入り口に掲示するなどPR活動に取り組んだ。また、昨年度同様、イベント時に会員勧誘をするなどその周知に努めた。

平成 28 年度 役員会等開催状況

1 理事会

	開催日	主な議題	出席状況
平成 28 年 第 2 回	5/19	(1) 平成 27 年度事業報告及び資金収支決算について (2) 平成 28 年度資金収支予算の補正について	16 人
平成 28 年 第 3 回	12/19	(1) 定款の変更について (2) 評議員選任等委員会運営細則の制定について (3) 社会福祉基金規程の制定について (4) 平成 28 年度資金収支予算の補正について	17 人
平成 29 年 第 1 回	2/28	(1) 役員及び評議員に関する規程の制定について (2) 評議員選任等委員の選任について (3) 評議員候補者の推薦について (4) 評議員選任等委員会の招集について	15 人
平成 29 年 第 2 回	3/16	(1) 平成 29 年度事業計画及び資金収支予算について (2) 平成 28 年度資金収支予算の補正について (3) 職員就業規程等規程の改正について (4) 経理規程の改正について (5) 会員規程の改正について (6) 部会規程の改正について (7) 訪問介護センター運営規程の改正について	16 人

※出席者には、監事を含む。

2 正副会長会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成 28 年 第 2 回	10/4	(1) 平成 28 年度主要事業の進捗状況 (2) 社会福祉法改正に伴う本会の対応状況について	3 人
平成 29 年 第 1 回	2/27	(1) 社会福祉法改正に伴う事務の進捗状況について (2) 評議員候補者の推薦及び評議員等選任等委員について (3) 平成 29 年度事業計画及び資金収支予算について	3 人

3 専門部会

(1) 総務部会・財務部会・事業部会合同会議

	開催日	主な議題	出席状況
平成 28 年 第 1 回	11/15	(1) 社会福祉法の改正に伴う社会福祉法人制度の改革について (2) 定款（素案）の変更箇所について (3) 評議員会及び評議員選任等委員会について (4) 本会積立金等の基金化について (5) 今後のスケジュール	13 人

※出席者には、監事を含む。

4 評議員会

	開催日	主な議題	出席状況
平成 28 年 第 2 回	5/24	(1) 平成 27 年度事業報告及び資金収支決算について (2) 平成 28 年度資金収支予算の補正について (3) 理事の選任の同意について	35 人
平成 28 年 第 3 回	12/26	(1) 定款の変更について (2) 社会福祉基金規程の制定について (3) 平成 28 年度資金収支予算の補正について	31 人
平成 29 年 第 1 回	3/21	(1) 平成 29 年度事業計画及び資金収支予算について (2) 平成 28 年度資金収支予算の補正について	30 人

※出席者には、監事を含む。

5 監査会

開催日	主な内容	出席状況
5/12	平成 27 年度事業報告に対する監査	1 人
5/12・5/13	平成 27 年度資金収支決算に対する監査	2 人
11/8・11/10	平成 28 年度上半期の事業に対する中間監査	1 人
11/8	平成 28 年度上半期の会計・財産状況に対する中間監査	2 人

6 評議員選任等委員会

	開催日	主な議題	出席状況
平成 29 年 第 1 回	3/2	(1) 評議員の選任について	4 人